

## 消防辞令交付式

～ 地域を守り・安心安全を ～

3月27日(日)、揖斐川町消防辞令交付式が、揖斐川町中央公民館で行われました。

今回、消防団員53人が新しく入団され、新入団員の代表が辞令を受け、緊迫した空気の中で宣誓が行われました。また、77人が退団され、74人が昇任されました。

式典の中で、長年消防団員として活躍された皆さんに消防庁長官表彰と、日本消防協会会長表彰の伝達が行われました。

表彰を受けられたのは、次の皆さんです。  
(敬称略)

### 消防庁長官表彰

永年勤続功労章

副団長 大葉 光義

### 日本消防協会会長表彰

精績章

分団長 高橋 弘郎

勤続章

団員 高橋 久信

### 退職団員に対する町長特別感謝状

副団長 新井 國男



▲辞令交付式の様子 (消防団長訓示)



▲新入団員代表による宣誓の様子

## 東日本大震災の被災地へ 皆さんの支援が届けられました

3月11日(金)に発生した「東日本大震災」の被災地に対する義援金や支援物資など、町民の皆さんからのあたたかいご支援をいただきました。

震災直後から開始した義援金募集は、4月13日現在で107万5506円の募金がありました。この募金は、日本赤十字社岐阜県支部および岐阜県共同募金会に送金され、被災地へと届けられます。

また、3月23日(水)から受付を開始した支援物資にも多くの方がご協力いただき、650箱以上のおよぶ支援物資が岩手県と宮城県に送られました。  
一日も早い被災地の復興を願っています。



▲ボランティアの皆さんによる支援物資の積込作業の様子

## 郷土食材を活用した 加工料理研修会

3月15日(火)、揖斐川町中央公民館で郷土食材を使った農産物加工品の料理実習が開催されました。

この日は、町内で地域農産物の加工に取り組む女性グループ30人が参加しました。

今回の講師に神戸町在住の家庭料理家である山川潤子さんをお招きし、揖斐川町産の沢あざみ、よもぎ、そば粉を使ったそば粉入り沢あざみのお好み焼き、菜もち五平もち、よもぎ饅頭の3種類を作りました。

沢あざみのシャキシャキとした食感や揖斐川よもぎの香りが生かされた料理ができました。今後、地域の活性化や町のPRにつながっていくことを期待しています。



▲料理実習の様子

## 東日本大震災の被災地へ

～ 揖斐郡消防組合消防本部が岐阜県緊急消防援助隊として派遣～

3月16日(水)と19日(土)に、東日本大震災に対する岐阜県緊急消防援助隊として揖斐郡消防組合消防本部から隊員12人が派遣されました。

隊員は、17日(木)～19日(土)と20日(日)～21日(月)に各隊6人ずつで参加し、福島県相馬郡新地町で行方不明者の捜索にあたりました。

3月22日(火)には、揖斐川町役場を訪れ、揖斐郡消防組合管理者である宗宮町長に活動内容を報告しました。

活動した地域は、福島第一原発の北約40キロメートルの位置であったため、放射線の計測器を身につけて活動、原発の事態急変を受けて緊急退避するなど、放射線の恐怖にさらされながらも、強い精神力と思いやりの心を持って救助活動を展開しました。

各隊の隊長を務めた大久保幸弘さんと竹中幹雄さんは、「テレビで見ると以上に悲惨な現場でした。被災者の方々は、冷たい風が強く吹きつける過酷な条件の中、私たちを見ると頭を下げてねぎらってくれました。それを目の当たりにすると熱いものがこみあげてきて、被災地の人たちがこれだけ頑張っているのならもともと自分たちが頑張らなければいけないと、より一層使命感が強くなりました。」と話されました。



▲被災地での活動報告



▲緊急消防援助隊出発式の様子

## 中学生海外研修報告会

～ リーダーとしての成長～

3月22日(火)、揖斐川町役場で、中学生海外研修派遣事業の報告会が行われました。

今回は、1月20日(木)～28日(金)に実施した、アメリカ ユタ州 セントジョージ市への研修派遣団17人の中学生と引率者が報告をしました。

生徒からは、「アメリカの広大さに感動し、笑顔の素晴らしさを学んだ」、「研修を通して何事にも挑戦できる自信がついた」、「研修で得たものを学校生活で活かし、仲間と共に地域に貢献したい」とリーダーとして頼もしい報告がありました。また、家族に対する感謝やふるさとに対する愛着、そして仲間を大切に思う思いやりの心がより強くなりました。



▲リーダーとしての頼もしさを感じました

## よりよいまちづくりへ

総合計画後期基本計画を答申

3月24日(木)、揖斐川町第一次総合計画(平成18年度～27年度)の後期基本計画案(平成23年度～27年度)が揖斐川町計画審議会の樋口直嗣会長から宗宮町長に答申されました。

この後期基本計画案は、昨年10月から揖斐川地区行政推進員代表者会議や各地域審議会、住民からの意見聴取を経て作成されたもので、町内の各団体代表者ら20人で構成される計画審議会で審議されました。

樋口会長は、「住民参加の下、協働のまちづくりが進められることを希望します。」と話され、宗宮町長は、「施策の実現に向け、積極的な取り組みを約束しました。」



▲協働のまちづくりを進めます

東日本大震災復興支援大会が  
開催されました

3月27日(日)、揖斐川健康広場で、実業団女子ソフトボール招待試合が行なわれました。

試合には日本女子ソフトボール1部リーグの強豪、トヨタ自動車と豊田自動織機が招待され、高い技術に観戦に訪れた観客から大きな拍手が贈られました。



▲招待試合の様子

試合後は、トヨタ自動車の選手による技術講習会が行なわれ、集まった約300人の子どもたちが熱心に指導を受けていました。

また、会場では東日本大震災の義援金の募集も行われました。試合前に、実業団の2チームと強化試合を行なった大垣ミナモトソフトボールクラブの選手も義援金への協力を呼びかけ、会場を訪れた多くの観客から

温かい善意が寄せられました。当日、会場内で集められた義援金は、日本赤十字社岐阜県支部、岐阜県共同募金会に送られ、被災者の方々へ届けられます。皆さんのご協力、ありがとうございます。



▲多くの方々が義援金にご協力いただきました



▲技術講習会の様子

谷汲山参道竹燈籠点灯式

「夜桜とほのかな灯りを楽しむ」

観光と地域の活性化に取り組んでいる谷汲門前街並づくり委員会による、竹灯籠点灯式が3月31日(木)に行われました。

これは、桜の開花に合わせて、谷汲山華厳寺を訪れる皆さんに参道の夜桜を楽しんでもらおうと毎年行われているもので、手作りの行燈や竹燈籠500基が参道沿いに設置されました。

ほのかな灯りに照らされた谷汲山参道は、幻想的でやわらかな雰囲気 연출していました。



▲竹燈籠点灯式の様子(谷汲山参道にて)

NPOの活動に魅せられて

「県外から移住・定住」

このたび、奈良県出身の松浦真由美さんがNPOいびがわみずみずエコーステーションに就職、そして揖斐川町へ移住されました。

松浦さんは、大学在学中に大学の研修プログラムとして地域づくりの研修会に参加。西濃地域のNPO団体で滞在型の作業体験などを行ない、そこで活動する人々のいきいきとした姿に感動し、自身もNPOの活動を通して、環境問題に取り組み、やがては国際的に貢献できるようになりたいという夢を持たれました。

町では、昨年からの田舎暮らしや移住・定住の取り組みを行なっており、NPOの方々の活動が移住・定住のきっかけとなったことで、様々な分野で連携した取り組みにつながっていくことを期待しています。



▲NPOみずエコの松浦さん(写真中央)